

生きものや地元を愛する子どもを増やしたい！

水元かわせみの里 キッズボランティア

水元かわせみの里では、平成25年度から小学生が参加する登録制のボランティア活動を始めた。生きものと地元が大好きな子どもに育ててほしい、そんな思いから始めた活動である。当初は12人だったメンバーは、毎年新しいメンバーを迎えつつ、平成28年度は20人となり、開始時から4年間ずっと参加している子どももいる。子どもたちにより選ばれた「かわせみキングス」という愛称もだんだんと馴染んできた。



プロジェクト・ワイルドの体験

「学び」と「実践」の活動

かわせみキングスでは、1年を通じて様々な活動を行ってきた。例えば、プロジェクト・ワイルドという、アメリカ発祥の環境教育プログラムを実施し、野生動物の生態について学ぶ機会を設けた。さらに、年5回の「生きもの学習会」という学びの場を設け、昆虫、植物、野鳥などの野生動物の具体的な生態や、葛飾区の環境保全の取り組みなどについて学ぶ機会とした。



生きもの学習会（野鳥について）

その他、地元の自然との違いを体感する機会を持つために、施設以外のフィールドにも出かけた。青梅市の御岳山や神奈川県三浦半島にある小網代の森での自然観察や、町田市の三輪里山での地元の団体による間伐作業などを体験した。また、谷津干潟自然観察センターの谷津干潟ジュニアレンジャーとの交流を行い、同じく小学生が行っている活動に参加した。



谷津干潟ジュニアレンジャーとの交流

そして、施設のシンボルであるカワセミの繁殖のための環境整備や、飼育生物の世話、施設が主催するイベントにおける生物の解説、水元公園内の清掃など、普段の生活ではなかなか体験できないことを実践した。

このような科学的な「学び」と、保全活動などの「実践」、これらを両輪とし、子どもたちに様々な経験を提供した。

活動を通じて

毎回、活動が終わった後には、学んだことや感想などを記録する「ふりかえりノート」を子どもたちにも書いてもらっている。感想には、「楽しか

った。「色んな生きものがいてびっくりした。」
「また来年もやりたい。」などとあり、活動内容への興味や関心がうかがえる。高学年などは、活動を踏まえて自分が自然や地域のためにできることなどを考えたコメントもあり、子どもたちの成長を感じられる。

また、かわせみキングスのメンバーは、学年や学校は様々だが、生きもの好きという共通点でつながった仲間づくりの場となっている。活動の際には、水元かわせみの里の大人のボランティアに、安全管理などのサポートしていただいていることから、地域の幅広い年代の大人たちとの交流の場ともなっている。

さらに、かわせみキングスの活動は、施設の来館者にも影響を与えている。例えば、かわせみキングスが施設の飼育生物の世話をしていることについては、来館者から「子どもたちが生きものを育ててくれているのを知り、うれしくなった。これをきっかけに生きものを見に来ようと思う。」などの声が寄せられた。子どもたちによる活動には、大人の心を動かす力があることを発見した。



ふりかえりノート



大人のボランティアとの環境整備作業

これからの取り組み

昨今、環境教育は学校教育などでも徐々に取り入れられ、実施される機会が多くなってきた。しかし、かわせみキングスのように1年間、もしくは何年間にも渡り、継続的に環境教育を受けられる場は多くない。平成28年度からは、小学校を卒業し、中学生になったメンバーを「かわせみユース」とし、継続して活動に参加してもらった。引き続きこのような活動に参加したいという子どもの受け皿とする他、今後はさらに、かわせみキングスのお兄さん・お姉さんとして、活動のサポートの役割を担ってもらえるよう、工夫していきたい。

今後も、そんな貴重な環境教育の場を通じて、子どもたちに生きものや地域への思いを育んでもらい、さらに、それらのために行動できる大人へと成長してもらえるよう、私たちが努力していきたい。

葛飾区立 水元かわせみの里
水辺のふれあいルーム
主任専門員 山崎祐子

